

国際連帯運動に対する弾圧を弾劾する決議

われわれは、各国政府、とりわけ日本政府が、AWC が推進する労働者・民衆の国際連帯運動に対して、入国禁止措置や強制送還など不当な弾圧を拡大していることを強く弾劾する。

日本政府は今年の 6 月と 11 月、AWC 日本連が主催する国際連帯事業や反米軍基地行動に参加するために日本を訪問しようとした AWC 韓国委員会代表ら 2 名の入国を認めず、韓国に強制送還した。その過程では、日本の治安当局が事前にこれらの活動家の経歴を調査していたことが明らかになった。また、フィリピンや米国の活動家たちも、長時間にわたる入国審査など日本の入管当局による嫌がらせに直面してきた。

それら AWC の国際連帯運動に対する弾圧は、初めてのことでなく、日本だけのことでもない。フィリピン政府もまた、AWC 国際事務局長を含む複数の日本の活動家をブラックリストに掲載し、長年にわたって彼らの入国を妨害し続けている。また、各国で入国した活動家に対する監視活動も行われてきた。

これらはまったく許しがたい人権侵害であり、不当な政治弾圧だ。それは、各国・地域の労働者・民衆が相互の団結と連帯を発展させていくことを妨害しようとするものである。とりわけ日本政府は現在、反戦・反核・反基地の国際共同行動のために来日しようとする海外の平和活動家に対する弾圧を拡大し続けている。われわれはそれを徹底的に弾劾する。

帝国主義と各地の反人民的政権は、「反テロリズム」を口実にして、互いに連携しつつ、国際的に拡大する労働者・民衆のたたかいに対する違法で不当な監視と弾圧を強化してきた。AWC の活動家に対する入国禁止措置や強制送還、さまざまな嫌がらせもまた、そのような強化される民衆監視体制と民衆運動弾圧の一環に他ならない。

しかしまた、強化される弾圧は帝国主義と反人民的政権の恐れのものである。彼らは搾取・収奪・抑圧とたたかう各国・地域の労働者・民衆が、互いに連携し、共通の敵に対する共同の闘争を前進させていくことを恐れているのだ。

われわれは、各国政府・入管当局による AWC の国際連帯運動に対する弾圧をあらためて弾劾する。われわれは相互に協力し、不当な入国禁止措置を撤回させるために共同でたたかう。そして、アジア太平洋地域の民衆運動間の相互連帯をいっそう前進させ、帝国主義の支配・侵略に対する国際共同行動をさらに強固に発展させていく。

2018 年 1 月 28 日

第 18 回 AWC-CCB 会議（於・ソウル）